

編集後記

第7回目の共通1次試験の出願も終わり、いよいよ本試験を迎えることになりました。臨時教育審議会も8月に発足し、教育改革について具体的な検討が進められておりまして、共通1次試験の改革もその重要課題の一つと目されています。国立大学協会においては、既に第2常置委員会と入試改善特別委員会を中心に検討が進められています。

本号では、大学入試をめぐる諸問題を座談会によって明解に浮き彫りにし、また、「大学入学者選抜方法改善の歩み——共通第1次学力試験の理念を中心として——」について、再認識の上、現行制度の改善に尽力される一助となるよう第2常置委員会専門委員の松井榮一京都教育大学教授に御執筆いただきました。

事例紹介では、受験機会の拡大を叫ばれている折から第2次募集を実施された小樽商科大学(商学部)、九州工業大学(工学部)及び産業医科大学(医学部)の事例を紹介させていただきました。

研究ノートでは、前号に引き続き、「解答分析(生物I)」及び「旧高商系大学・学部の2次募集入学者を中心とする学生の勉学意欲に関する調査研究」を御紹介願いました。また、当センターの清水教授から「第1次募集と第2次募集の合格者の共通第1次学力試験の成績比較」を公表いたしました。

本号の刊行に当たり、御多忙の中を座談会に御出席いただきました、浅井、潮木、黒羽、羽部の各先生並びに寄稿いただきました、松井、沼田、遠藤、小出、小林、佐藤の諸先生に厚くお礼申し上げます。